

# 本山 栄一（もとやま・えいいち）

## 1、プロフィール

歌人。文芸誌「黎明」、「座標」に作品を発表。同人誌「ぬはり」創刊に参加し、7年間毎号10首～20首発表。『青森県歌集』にも作品が収録され、『歌集 挽歌』を残す。

<生没>

1907(明治40)年2月18日～1972(昭和47)年1月29日

<代表作>

『歌集 挽歌』

<青森との関わり>

下北郡大湊町で生まれ、大湊短歌会を作る。大湊文化協会の設立にも奔走する。むつ市大平町で没する。

## 2、作家解説

明治40年下北郡大湊町で生まれる。大湊尋常小学校では後年の彫刻家古藤正雄と同級であった。和田山蘭を選者とする東奥日報の歌壇に常連として投稿を続け、山蘭に資質を認められる。

昭和2年、山蘭が創刊した「ぬはり」に参加し、毎号作品を発表する。大湊の製材所に勤務する傍ら「黎明」にも投稿する。5年1月、県内文芸誌を総合した「座標」創刊号にも作品を発表、3月号には懸賞小説当選作「裸で来る者」が載る。この年大湊短歌会を作る。9年ころ、歌誌、流派を離れ、自作しはじめる。

16年、医師菊池勤を会長に迎え、大湊文化協会の設立に奔走する。20年、文具店を開き、彩葉社を発足させ「白壁」を創刊する。

31年発行の大湊文化協会15周年記念号には、闘病生活のこと、23歳の深刻な恋愛でもうけた子のことを詠んだ歌が発表され、この年の『青森県歌集』には、

その子のことを本山が詠んだ歌 10 首と、その子自身が詠んだ歌 10 首が載せられている。

45 年 1 月には、『歌集 挽歌』を、装幀・序、古藤正雄氏、題字、工藤秀明氏で大湊文化協会より発行する。昭和 47 年 1 月逝去。享年 64。

没後、恐山に歌碑が建立され、「人はみなそれぞれ悲しき過去持ちて賽の河原に小石積みたり」が刻まれている。

### 3、資料紹介

○『歌集 挽歌』

図書

1970(昭和 45)年 1 月 10 日

181 mm × 128 mm

古藤正雄氏は序文にこの歌集を称して「俗を忌み、真実に徹しての吐露であることは言を俟たない」と書く。闘病生活中の作者の回復を祈って、下北文化協会の手で企画、発行された。人間本山栄一が赤裸々に歌い上げられた 408 首が年代順に収められている。